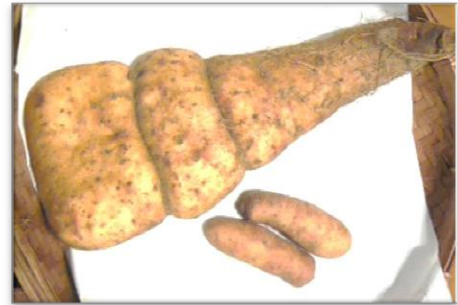


新技術！丸種いもによるヤマトイモの大量生産

- ・種いものコストを従来の約40分の1まで削減。
- ・貯蔵後の生存率・萌芽率ともにほぼ100%。



『低コスト』 & 『安定生産』

■方法

1. 親いもを2gに細断する。

親いもは表面の変色や傷がなく、形状の良い個体を使用する。
乾燥による亀裂を防ぐため、2g未満にはしない。どの切片にも皮は必ずつける。
病気予防のため、定植前に消毒（ベンレート水和剤20の100倍液に10分間浸漬）を行う。

2. 切片を育苗し、丸種いもを育成する。

窒素成分1.5kg/10a程度とし、特に発芽するまでは乾燥させないように管理。
栽培期間中も乾燥するようなら、灌水を行うと良い。
※ポットで育苗してから定植すると、乾燥による株落ちが少ない。

3. 丸種いもを保存し、翌年春に丸種いもを定植する。

秋に葉が枯れたら丸種イモ（20～80g）を掘り起こし、0℃以下にならない温度で保存。
連作は適さない。

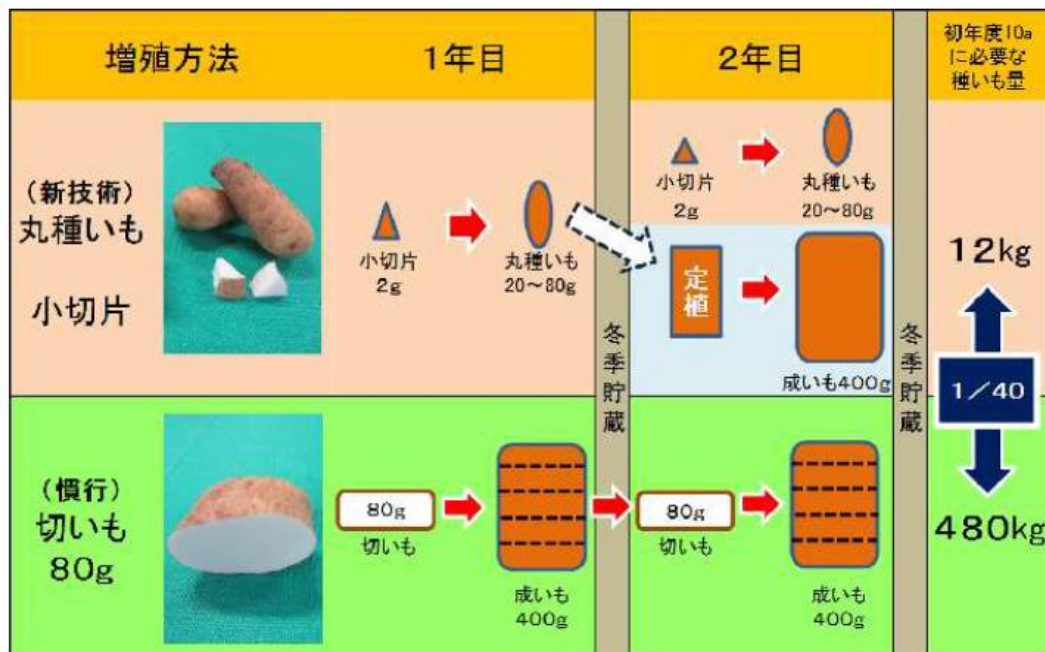


図1 増殖の流れと初年度10aに必要な種いも量(5,000株/10a試算)

(山梨県総合農業技術センター 平成26年度研究の成果より抜粋)